



令和7年度 富山市立水橋西部小学校

# 天瀬っ子

学校だより 最終号



違いを認め、未来へ輝く天瀬っ子 — 閉校によせて —

「他の人は自分にはないものを持っている。自分もまた他の人にはないものを持っている」

校長 北岡 明

今年度4月の始業式、子供たちに「この一年間大事にしてほしい構え」として、上記の言葉を贈りました。同じ教室で学び、同じ行事を経験しても、感じ方は一人ひとり違います。だからこそ、互いの違いを当たり前のもので、出し合い、認め合うこと。それが、自分自身と自分以外の存在の「かけがえのなさ」に気付くことにつながると考えたからです。そして、そんなかけがえのない存在の集まりが水橋西部小学校であることを実感することが、新しい学校へ踏み出す土台や勇気になると信じていました。

子供たちが駆け抜けたこの最後の一年間を見ていると、子供たちは、まさにこの言葉を実感できたのではないかと考えています。運動会や学習発表会、日々の授業。自分を高め、友を認め、切磋琢磨するその姿は、まさに「まぶしい」という言葉がふさわしい輝きを放っていました。また、教育振興会や天瀬育朋会の皆様には、「学校かくれんぼ」や「閉校記念プラネタリウム」など、心躍る企画を運営していただきました。地域の方々や保護者の皆様の愛情に包まれて過ごした時間は、素晴らしく、ありがたいものでした。子供たちの心には、これら全てが「故郷の温かさ」として深く刻まれたことでしょう。

来年度4月には、子供たちはよいよ新しい学校へと学びの場を移します。環境が変われば、戸惑うこともあるかもしれませんが、しかし、子供たちの胸には水橋西部小学校で培った「二つの構え」があると思います。

「他の人は自分にはないものを持っている」

「自分も他の人にはないものを持っている」

この精神があれば、どんな場所でも自分を信じ、これまでの仲間と新しい仲間を信じ、手を取り合って歩んでいけると確信しています。

開校以来、長きにわたり本校を支えてくださった地域・保護者の皆様、そして本校の歴史に関わってくださったすべての皆様に、深く感謝申し上げます。皆様のお力添えにより紡がれてきた「水橋西部小学校の子供たちのすばらしさ」が、新しい学校の、そして本校の子供たち自身の未来を照らす灯火として、いつまでも輝き続けることを心より願っております。

